

## 噂の土木応援チームデミーとマツ

○出水亨<sup>1</sup>，松永昭和吾<sup>2</sup>

長崎大学大学院工学研究科<sup>1</sup>，株式会社共同技術コンサルタント<sup>2</sup>

### 1. はじめに

我々の暮らしは土木と密着している。道や水道や公園がなかったら、我々は普通の暮らしを送ることができなくなる。市民が普通に暮らすために、道や水道や公園の事を考える必要がある。それを考えるのが「土木の仕事」である。日本ではほとんどの地域で普通の暮らしを送ることができる。普通に暮らせることは幸せなこと。幸せを作る仕事は土木である。土木のことをもっと多くの市民に知ってもらい、土木ファンを増やしたいと思い結成した噂の土木応援チームデミーとマツ。ここではデミーとマツの活動について紹介する。

### 2. 活動目的

噂の土木応援チームデミーとマツは土木の役割や大切さを伝えるために2016年4月に結成した2組のユニット。ボランティアで活動を行っている。噂の刑事とトミーとマツを真似ているといえはウソではない。我々の主な活動は驚き土木体験イベントの企画・開催である。イベントの開催地域は福岡県、佐賀県、長崎県と九州北部を中心としている。活動のコンセプトは①参加対象者は子供を中心とする、②仕事場で働く家族に参加してもらい、③工事現場や工場など通常立ち入ることができない場所で実施する、④リアルな現場でお仕事体験をする、



写真-1 デミーとマツ

⑤土木技術者と子供がふれあう場をつくる、⑥今まで誰もやったことがない企画をする、などである。デミーとマツが担当するのは、イベントの発案、イベントパートナーの発掘、イベントメニューの企画、告知用パンフレットの作成、告知、イベント当日の講義である。参加者のターゲットは主に子供にしているので開催日は土日祝祭日としている。イベントは2つのアクションに分けて実施している。1つ目は「楽しく学ぼう!」、2つ目は「楽しく遊ぼう!」である。

「楽しく学ぼう!」はデミーとマツが担当でプロジェクターを使って専門用語を子供たちの分かりやすい言葉に噛み砕いて、おもしろおかしく土木について講義をする。説明時間は約20分とし、初めて土木という言葉に耳にする子供があきない時間としている。「楽しく遊ぼう!」は現場で働く土木技術者が中心となって仕事をブラブラ歩きながら仕事場や仕事内容の説明、プロの技の披露、お仕事体験の指導などを行う。時間は約90分とし、合計約2時間としている。ユニット結成から約2年間で8回のイベントを実施し、協力機関も35機関、参加者は延べ600名にのぼる。ここでは今まで開催したいイベントで人気があったものを紹介する。

### 3. 驚き土木体験イベント

- ・のり面でコンクリートバズーカをぶっ放せ!

2017年6月10日(土)に長崎県諫早市内で長崎県、田中工業(株)の協力のもと実施した。ターゲットは「のり面」。のり面工事は、斜面が崩れて道路をふさがないように斜面を強くする工事のことである。今回の現場では土木技術者が斜面にロープにぶらさがりながら約150ミリの円筒形のホースを使い生コンクリート(モルタル)を吹き付ける作業を行っている。そこでイベントではのり面を使ったロープクライミング体験とコンクリートの吹き付け体験を行った。コンクリートの吹き付けは実際の斜面で行った。つまり、子供たちが吹き付けた場所は一生この場所に残ることになる。子供たちがこの場所を通るたびに私がやったんだと声を出してくれることだろう。



写真-2 バズーカ発射

- ・マンホール工場に潜入

2017年9月2日(土)に佐賀県みやき市で日之水道機器(株)の協力のもと実施した。ターゲットは「マンホール蓋」。

マンホール蓋は下水道、上水道、電気、ガスなどの地下インフラのメンテナンス用の点検孔の役割を果たしている。現在、デザインマンホール蓋が人気を集めていることからマンホール蓋を通して地下インフラの役割や大切さを伝えることができないかと企画した。今回、マンホール蓋の製造過程を見るとともにマンホール蓋の色塗り体験、マンホールの蓋開け体験、ゲリラ豪雨時のマンホール蓋の性能実験を行った。マンホール工場に一般市民はもちろんのこと子供を入れたことがなかったため、十分な安全対策を行いイベントを企画した。このイベントは多くのメディアに取り上げられたこともあり、普段注目されないマンホール蓋に関するお仕事が脚光を浴びた記念すべき日でもあった。結果として、日之出水道さん社員が自分の仕事に誇りを持つなど意識に変化があったようだ。



写真-3 マンホールの色塗り体験

#### ・親子で砕石場の巨石を爆破！

2017年12月16日(土)に長崎県長崎市で一般社団法人長崎採石協会の協力のもと実施した。ターゲットは「砕石」。砕石はコンクリートを作るうえではかかせない材料。コンクリートの約6,7割に砕石が使われている。つまり、砕石がないとコンクリート構造物を造ることができない。砕石がどのような場所でどのような人がどのように作っているのかを知ってもらうことを目的とした。砕石場では子供が大好きな建設機械が使われていることから、大型ダンプトラックでのドライブ、大型ショベルでの巨石すくい、ダイナマイトを使った巨石の爆破などを行った。このイベントを企画した当初は採石場で働く土木技術者は非協力的だった。こちらの提案を押し付けるのではなく土木技術者と一緒になってイベント企画することでやる気にかわってきた。キーワードは「子供たちの笑顔のために」をスローガンを掲げたこともやる気に火をつけた要因だったと考える。



写真-4 超大型ダンプ

#### ・苅田コンクリート開園

2017年12月24日(土)に福岡県苅田町で苅田町、国土交通省、他8機関の協力のもと実施した。ターゲットは「コンクリート」。このイベントはデミーとマツの噂を聞きつけた苅田町に勤める大学時代の同僚の電話で企画がスタートした。苅田町は産業の町で産業観光を売りにしている。町内にはコンクリートの材料である砕石場やセメント工場が存在している。つまり、苅田町はコンクリートの材料から製造、現場まで一連の流れをみる事が可能な場所である。今回は砕石場、セメント工場、生コン工場、コンクリートの打設現場を一日で見学・体験する今までにない(おそらく日本初)のイベントを実施した。コンクリートの打設現場は北九州空港に隣接するヤードで消波ブロックの製造現場とした。1日4現場でのイベントを実施することや福岡県内で本格的に実施する初のイベントだったこともあり、各機関との調整が非常に大変だった。しかし、同僚に助けられ無事に成功した。



写真-5 消波ブロック

#### 4. おわりに

土木イベントを通して多くの子供たちの参加があり、子供たちの輝く笑顔をたくさん見ることができた。参加した子供たちの笑顔を見るとやってよかったなと思うし、次回をもっと楽しませてあげたいとエネルギーが湧いてくる。イベント終了後に保護者から「息子が家に帰った後も興奮が冷めず、お父さん、兄弟などにイベント自慢、土木自慢を嬉しそうにやっていた」、「普段気にしてもいなかった土木のお仕事の大切さが理解できてよかったし、子供に伝えることができたよかった」などとメッセージをもらう。我々の思いが伝わった瞬間である。

デミーとマツは今後も子供たちが喜ぶ驚き土木イベントを実施し、少しでも多くの子供たちに土木への関心をもってもらえるとともに土木ファンを増やしていきたい。一番の願いは我々のイベントに参加した子供たちの中から将来の日本、いや世界を担う土木技術者が誕生することだ。